

2 種類のオープン・キャンパスと担当学生の役割

ーオープン・キャンパスで何が期待されているのかー

菅野 憲司
千葉大学文学部

1. はじめに

この個人研究発表では、千葉大学で行なわれている、夏季と秋季という2種類のオープン・キャンパスとその際における担当学生の役割を紹介し、オープン・キャンパスで何が期待されているのかを指摘する。

2. 2種類のオープン・キャンパス

夏季オープン・キャンパスは、高校生が夏休みに入る7月下旬から8月上旬に、学部毎に開催され、本年度は、開催順に、下記のような参加状況であった。

7月22日(水) 医学部：募集人員105名・参加者数775名(前年比175名増)

7月25日(土) 理学部：210名・994名(156名増)

7月26日(日) 法経学部：370名・1,519名(95名減)

8月1日(土) 文学部：180名・1,554名(157名増)

8月2日(日) 教育学部：455名・1,986名(314名減)

8月3日(月) 薬学部：80名・1,510名(345名増)

8月4日(火) 看護学部：80名・726名(110名減)

8月7日(金) 園芸学部：200名・694名(257名増)

8月10日(月) 工学部：630名・2,252名(212名増)

合計：募集人員2,310名・参加者数12,010名(前年比783名増)

これに対して、秋季オープン・キャンパスは、大学祭期間中の10月31日(土)に、大学紹介と学部説明と入学相談会を行なうもので、次のような参加状況が報告されている。

大学紹介(全体説明)：224名

学部説明(提示順)：(午前11時から) 園84・工208・医57・理108、

(午後1時半から) 法176・看48・文267・薬173・教305

入学相談会：文59・教101・法41・理21・医2・薬37・看18・工50・園16

合計：学部説明(全体説明224名を含め)1,650名、入学相談会(入試課の15名を含め)360名〔但し、理は午後学部でも行い、園・医(・看)は遠隔キャンパスに来ることを奨励〕、1,650+360は、前年比18増

3. 担当学生の役割

両オープン・キャンパスともに、担当学生がおり、夏季オープン・キャンパスでは、7つの学部で説明事項のひとつとして「在生による学生生活の紹介」が役割となっており、看護学部は、これにと在生との交流が加わり、理学部は、フリータイム(進学相談、研

研究室フリー見学)の一部になっていて、秋季オープン・キャンパスでは、入学相談会の前に、教員・現役学生等によるが付けられている。

所属の日本文化学科における担当学生に、行なったことを尋ねてメモしてもらおうと、次のような回答であった。

夏季:Aさんは、学習面の説明で、コマ割りのことや授業を中心に1日の流れを話し、
Bさんは、生活面の説明で、1日の流れや学食・サークル・アルバイトを話し、
質問等では、学生生活の様子よりも、8月の段階から入試対策関係だった。

秋季:Cさんは、高校時代にどれくらい勉強したか、センター試験対策などいつごろ、
どのような勉強をしたか、高校生ときの偏差値や模試の合格ランク、そして、
入学してよかったこと、就職率や就職活動のサポートについてのやりとりだった。

在学生の役割は、学生生活の紹介で、オープン・キャンパスの説明事項のひとつとして名実ともに定着しており、学内学外での学習や暮らしを、オープンキャンパス参加者全体に伝えることが、共通しつつ、更に、続く質疑応答や、相談会においては、受験・入学・在学という各々の経験や就職等各自の進路選択に基づく、個別対応にまで及んでいる。

4. オープン・キャンパスへの期待： まとめ

オープン・キャンパスは、入学試験そのものと比較したら、そう古いものではなく、入学式後のガイダンスで、15年以上も前の当時学部説明会と呼ばれたこれに参加した人数を確認しても、参加人数ゼロもよくあった、それが18歳人口毎年3%減の現状でも、比較的古い夏季と比較的新しい秋季の両方で、参加者数を本学では増やしている。

オープン・キャンパスは、当初これに参加しては合格できない、この時間もしっかり受験勉強すべきと耳にしたこともあった、しかし、大学受験も、買い手市場から売り手市場にシフトしたことも手伝って、オープン・キャンパスに対する関心が高まったこともあり、オープン・キャンパスへの期待も大きく、受験志願者候補たちと年齢も近い在学生による学生生活の紹介が、オープン・キャンパスの説明事項のひとつとして定着し、ますます大きくなる期待から、担当学生が、学内学外での学習や暮らしを、オープンキャンパス参加者全体に伝えることは共通化し、ますます、続く質疑応答や、取り分け、相談会においては、受験・入学・在学という各々の経験や就職等各自の進路選択に基づく、個別対応にまで及んでいるのが現状と考えることができる。

5. あとがき： オープン・キャンパスがどう向かうのか

大学入学定員が減らないどころか増えていて、18歳人口が減っていても、入学試験が難しくなっている医学部は、オープン・キャンパスに受験生並びに保護者様をより多く集めることが予想され、現医学部オープン・キャンパスはオープン・キャンパスの方向性に示唆的と考えている。本学で唯一学外開催の夏季オープン・キャンパスでは、医学部学生代表が「学生生活について」を分担して担当し、91%得点して合格したことまで紹介し、質疑応答やキャンパス案内まで、経験伝達されており、遠隔の西千葉キャンパスで行なう秋季オープン・キャンパスでも、千葉大学祭の内、看護学部との亥鼻祭が亥鼻キャンパスで開かれシャトルバスも告げられ、亥鼻塾と命名の受験相談に至って予備校も真っ青だろう。

(2009年11月22日脱稿、かんのけんじ・言語学)